



令和元年度 教育相談（初級）研修講座

茨城県教育研修センター 教育相談課 ☎0296-78-3219

【本研修の目的】 学校教育相談で用いる基本的なカウンセリングの技法を学び、不適応問題の予防や問題解決に向けた児童生徒や保護者との関わりに生かす。

【受講者数と内訳】 80人（小学校：27人，中学校：27人，中等教育学校：2人，高等学校：9人，特別支援学校：5人）



第2日を実施しました！



○講義・演習「個別面接の基礎2」

教育相談研修講座では、初級から上級にかけて10の面接技法を学びます。

初級第1日で、茨城大学大学院教授の生越達先生は、「技法の前に『構え』が大事」というお話をされました。

話し手の心に寄り添う聴き手の「構え（基本姿勢）」として、**受容・共感的理解・自己一致**が挙げられます。これは、「うまくいっているカウンセリングで起きていること」として、アメリカの臨床心理学者カール・ロジャーズが提唱したものです。「話し手のことを評価せず受け入れ、その内面を理解しようとし、それでいて聴き手である自分の本音も大事にする」ことができているときに、話し手は「この人になら、素直に話せる。分かってもらえる。」という気持ちを抱くそうです。

第2日は、講義において、この「構え」を確認した後に、面接技法のうち、「受容」「繰り返し」の二つについて、注意点を踏まえながらペアで演習を行いました。

その後、分散会に分かれて個別面接のロールプレイを行い、聴き手と話し手の応答の様子を録音しました。



○研究協議「個別面接の検討」

午後の研究協議では、午前の録音内容を聴きながら、どこがよかったか、どうすればもっとよい聴き方になるかを話し合いました。受講者5人に一人の助言者がつき、充実した検討会になりました。休み時間に廊下で質問するなど、熱心な受講者の姿が印象的でした。

終了後のアンケートには、「自分では気付かなかった部分を褒められて、良いところに気付くことができた。」や、「目の前の子どもの話をしっかり聴き、『聴いてもらった。分かってもらった。』と思ってもらえるように、評価なしに向き合っていきたいと思った。」等の意見が綴られました。